

第3回奈良市の地域教育を考える委員会会議録

平成27年3月9日 会議

地域教育課

平成26年度 第3回 奈良市の地域教育を考える委員会 会議録	
開催日時	平成27年3月9日(月) 14時00分～15時50分
開催場所	奈良市庁舎 第22会議室
内 容	<p>○ 開 会</p> <p>○ 議 事</p> <p>(1) 平成26年度「奈良市地域教育推進事業に関するアンケート調査」結果の概要の報告について</p> <p>(2) 奈良市地域教育推進事業 第4回「交流の集い」の報告について</p> <p>(3) 平成26年度奈良市コーディネーター研修の報告について</p> <p>(4) 地域・学校連携の今後の方向性について</p> <p>(5) その他</p> <p>○ 閉会</p>
出席者(委員)	<p>岡田龍樹会長 佐野万里子副会長 梅林聰介委員 岡田和大委員 長浜博己委員 岡田修委員 松本知子委員 上城戸栄子委員 上田和男委員 魚谷和良委員 (欠席 若江真紀委員)</p> <p>(担当部局) 梅田学校教育部長 寺田子ども未来部長 (欠席 北谷教育委員会事務局理事 西崎教育総務部長)</p> <p>(事務局) 今西教育支援課長補佐(廣岡課長代理) (欠席 松田地域教育課長(事務局長) 岡崎こども園推進課長 石原教育政策課長 城学校教育課長) 他 地域教育課から5名</p>
開催形態	公開
担当課	地域教育課

議 事 お よ び 協 議 内 容

○ 開会（司会市川係長）

○ 議事

岡田会長 本委員会は、運営要領により公開とさせていただきます。また、会議録を作成のため録音と写真撮影を行いますことをご了承ください。本日の会議録の署名は、岡田和大委員と上田委員にお願いします。本日の会議の傍聴希望はございましたか。

事務局 傍聴希望はございませんでした。

岡田会長 では、議事に入らせていただきます。議題の（１）（２）（３）をまとめて事務局より報告をお願いします。

事務局 （配付資料とパワーポイントを使って３議題を事務局説明）

以上ご報告をさせていただきました。ご意見、ご感想をよろしくお願いいいたします。

岡田会長 ありがとうございます。アンケート調査について、全て返ってきていないので途中経過ということですが、毎年同じ課題もありながら、先ほど説明ありましたように、それぞれの立場によって意識の違うところもあります。学校の管理職にとっては教職員の負担が重いとあり、会長は会長の立場で地域の理解がまだまだ、コーディネーターは保護者の理解がまだと、それぞれの立場にとって感じるいろいろなあります。アンケートについてご意見ありますか。また、回答が全て集まった正式な報告が後日届くと思いますのでご覧になってください。

続いて、「交流の集い」について、今回は100年会館で盛大に行われました。これについてもいかがでしょうか。去年から団体企業ブースも作っていただき、大学も2大学出ていました。企業も宣伝も含めて、こんなことができますとアピールしていました。読売新聞社は会場で号外新聞を配られ、パネルの発表会も時間を決めてスムーズに見て回れ、活気がありました。セレモニーも面白かったです。

日ごろこのような活動に参加されていない一般の方を巻き込むのが目的なのか、日ごろ関わっている方々が交流するのが目的なのか、基本的なスタンスは、日ごろ関わっている方々の交流ですが、せっかくですからこの機会に日ごろ関わっていない方にもものぞいてもらいたいというところで、「一般」という枠でどれくらい来ているかと集計していただいたところです。地域教育協議会の認知度をこの「交流の集い」で上げていくということもあるのかと思います。

また、今年度はコーディネーター研修が6回行われました。第1回初任者研修はコーディネーター勉強会の方々が時間をかけて準備、運営していただきました。初めてコーディネーターになり、コーディネーターってどんなことをするのか、と来られた方に、「コーディネーターとは何か」という形ではなく、「私たち、こんな活動をしています。」と説明していく形で、入りやすい初任者研修であったのではないかと思います。次年度27年度もコーディネーター勉強会の方にお世話いただきたいと考えています。ここまでの報告についてよろしいでしょうか。

それでは、（４）地域・学校連携の今後の方向性について、事務局よりご提案、説明をい

たきます。

事務局 資料の配布が本日になり申し訳ございません。各課と調整をしながら、あくまでも案の段階ですので皆さま方の忌憚のないご意見をいただいた上で、今後の方向性を考えていきたいと思っています。議会関係で担当課全て出席がしていないのでご質問に答えられるところがあればよいのですが、また後日お答えさせていただくこともあります。よろしくお願いたします。

(配付資料とパワーポイントを使って(4)を事務局説明)

岡田会長 ありがとうございます。先日の「交流の集い」でも、毎年、文部科学省の担当部局から奈良市は先進地ということで来ていただいています。奈良市の地域連携事業は充実・成長してきています。それを15ページの図のように導入期・成長期・成熟期とするならば、今は成長期の段階で、いかに先を見据えた発展形を考えるか、というところにさしかかっています。この事業と共に学校や地域に関わる施策、例えば小中一貫であったり、コミュニティースクールであったり、これに関わる施策も進んでいます。それを横目に見ながら、せっかくここまで充実してきたこの地域学校連携事業を、どのようにそれらと融合させながら発展させていくのかの課題を抱えています。その一つの案として、「新・地域教育協議会」を、という提案です。コミュニティースクールや学校評議員制度で行われているような学校評価を盛り込みながら、この事業をもう少し組織立てて進めていけないだろうかというご提案かと思えます。今の地域教育協議会も時間をかけてやっここまで組織化してきたわけですから、新たに別の組織というよりは、今までの土台の上ということで、一つのたたき台として案を出していただきました。この事業に携わっている方々からいろいろご意見をいただきながら、時間をかけながら検討していきたいと思えます。これしかないということではありませんので、本委員会の方々からご意見をいただき、今後の奈良市の発展形をつくり出していければと思えます。感想も含めてなにかご感想などございませんか。

岡田修委員 4ページ5ページの記述ですが、第1回の当会で、この事業をしていく上で子どもの力をなんと見るのか、例えば知的な学力なのか、生きる力なのか、という話で、私は平凡教育・非凡教育の話をさせていただいたと思えます。4・5ページの特に5ページのところですが、この部分が端的に出されてしまうと、この地域教育の成果が学力に直結してしまうと誤解を招いてしまう恐れはないかと思えます。地域教育で補充学習的な学習が頻繁にされています。そのことを否定はしませんし、いいことだと思いますが、そのことによって地域の方々と顔と顔の見える関係を結んでいき、人と人とのつながり、人との付き合い方、また地域を離れてもきちんと挨拶ができる、そういったところが地域教育の事業のなかでは求めていかなければならない大きなものではないのかなと思えます。おそらくそういうことはあるとは思いますが、この事業の成果としてこのような形で出されますと、私の印象だけですが、このところだけが自分の中では少し合わないという感想です。

岡田会長 おそらく意図としては、地域学校連携事業の中で学力を高めるためのいろいろの補習授業をやった成果が学力に現われていますというのではなくて、もっとぼやっとして、地域の方と関わって挨拶をしたりなど、多様な経験をすることが実は学力に関わってく

ることもあるようだというぐらいのことだろうと思います。これだけが目指すべき目標ではないだろうと。

岡田修委員 長浜先生の三笠中学校の学校だよりでは、中学生が部活動のかたわら、大きな防災の集会に出向き支援したり、高齢者のご自宅に何かを届けたり、ということが実際されている。そういったものが、遠いところでは学力につながっていくだろうと思いますが、そこをいうのではなく、手前のところをしっかりと文字でも表現をしていただきたい。そういった活動が生きる力の根本になっていき、子どもたちがそれぞれの校区の中で次代を担う若者に成長していくのではないのでしょうか。

岡田会長 おっしゃることはよくわかる。学力は、わかりやすいが、わかりやすすぎる指標です。基本的に教育ですから、長い目で見ないとすぐに成果が表れないのが子どもたちです。教育というのは簡単には成果があがらないのはその通りですが、この事業の数的な評価は何だと問われることもあります。奈良県の事業でも、訴えかけていけるような数字で出てこないだろうかと、学力学習状況調査とのリンク等の模索はするのですが、おっしゃる通りそれだけではない。それが目標でもない。この事業は何を目指しているかというところをどう訴えかけて、いい活動だから努力しようと思ってもらえる中身をどのように提示していくのかです。それがわかりやすくより多くの人に共有されていくようになると、この事業が支持されていく。そうすると予算がつくということにもなっていくのでしょ。

岡田和大委員 「新・地域教育協議会」のイメージのところで、学校評価部を設置とあります。評価する方は、今の地域教育協議会の中を部会に分けて、その中の人々がチェックするというのはどうかと思ってしまう。自分で自分の活動をチェックすることになるのですね。それに意味がないことはないですが、今ある学校評議員が学校を評価するのと意味合いが違うと思います。

事務局 おっしゃる通りですが、言葉足らずですみません。学校によって少し人数は違いますが、各校に学校評議員が5名ぐらいおられます。学校評議員は、2年に1回原則交代しなければならない形で、奈良市では全校に設置しています。その方々が自分たちの学校運営委員会に直接関わっているのかどうかはわかりませんが、学校評議員という方々を活用していただくと考えています。その方々が学校運営委員会に関わり、活動を評価していただき、その方々が中学校区に学校園の代表として集まっていただくというイメージです。

岡田和大委員 コミュニティースクールができると学校評議員はなくなりますよね。結局、コミュニティースクールになるとほぼ同じメンバーがやっていくことにならないですか。

事務局 そのあたりも課題点などお聞かせいただきたいです。

岡田会長 いずれにしても評価は難しいものです。第三者評価の方が良い場合もあるし、関わっている者たちの自己評価がきちっとPDCAでできるような仕組みにしておくこともまた意味があります。日ごろの活動にあまり関わっていない人に評価された時の軋轢みたいなものもあるでしょうが、それだからこそ正當に評価される面も一方ではあるし、でも自分たちの活動を評価する仕組みを持って最終的には自分たちで評価する仕組みも意味があります。確かにこの部会の並びを見させていただいた時に、学校評価部会だけ少

し異質に感じます。どういう位置づけにするのかは別にしても少し異質な感じがします。先ほどの学力の問題をどう評価するのも含めて、評価というのはやはり避けて通れないことですので、このあたりをどう入れ込んでいくのかは課題のひとつです。他にご意見がございませんでしょうか。これでいくわけではありません。今思いつかれる感覚的なご意見を多くいただき、またそれを参考にさせていただきたいと思います。

梅林委員 イベント時の一般の参加者数ですが、例えば我々、三笠中学校区の「まほろば文化祭」では700～800名の参加がありますが、保護者が多くを占めます。実際、我々も回覧を回して参加を呼びかけますが、いわゆる一般の地域の方（保護者でない）の参加者数を分けて評価していく必要が今後の課題としてあるでしょう。保護者も含めて一般の地域の方なのかどうか。私は保護者も含めて地域の方と思っています。保護者PTAと一般の地域の参加と含めてどうなのかと。地域は学校を支えていこうと思っているので、地域の参加が少ないと評価されると、保護者も地域の人ではないかと思っています。その分け方も今後考えていただきたいです。

上田委員 今、おっしゃる通り、評価は基準によっていろいろ変わってきます。

岡田会長 地域学校連携事業ですから、地域と言えば全部地域です。学校の先生も基本的にどこかの地域の方です。

梅林委員 どこまでが地域の人なのか、はっきりしないです。もう一点、地域団体や地域住民への広報ですが、ここは力をいれていかなければと思います。我々は地元企業と一緒にいろんな行事をやってきています。地域に協力していただける企業の方々に参加していただけるような広報の仕方を考えてもらいたいです。

岡田会長 先ほどのアンケート集計で課題とすることの認識で、例えば協議会会長においては、この事業が学童期の子どもがいない家庭へ届いているのだろうかという思いもあって、そういう場合の「地域」もあるし、またPTAやコーディネーターをされている方にとっては、この事業が一部の保護者ばかりが関わっているだけではないだろうかという思いもある。「地域」をどういった視点で分けるのがいいのか難しい。また、広報は片手間にはできないので、この事業をどう伝えていくのかを事業化する必要があると思います。イベントや事業をするだけでは広がっていかない。イベントや事業をしながらそれをきっちり広報する部門というのが今後必要と考えます。

梅林委員 私はこの活動は地域の子どもたちの人間性を育てていくひとつの方法だと思います。今現在関わっている子どもたちの学力の話は別として、将来の人間性豊かな子どもたちを育てるために学校も地域も一体となって育てていこうと一致しています。学力に関しては学校の中の話であって、我々地域の人間に学力がどうと言われてもできるわけがない。少なくとも最近の事件からも感じますが、人間関係の希薄さから出ているのかとも思います。そのような子どもたちにならないように、我々も一緒になって学校と活動することで、子どもたちの人間性を育てていくことが必要だと思います。

岡田和大委員 評議員をやっている時でも、評議員が学校運営の評価をすることはすごく難しかったです。どう評価してよいかわからない。これについては「新・地域教育協議会」の「学校評価部」も同じことで、学校運営について評価するのは難しいかもしれませんが、評議員よりも学校運営に関わっていくことでできるようになるのかと言えるかもし

れません。逆に各協議会が地域で決める学校予算事業でする活動をして、その活動が合っているのかどうかは、合っていると思っているからしている訳で、それを評価せよと言われても何を評価するのか。人が集まらなかったから広報はどうしていこうとは話せても、方向性自体を評価することは無理ではないでしょうか。校区の活動でも外部の方が批判的にとらえている場合がありますが、それについてどうとらえるのか、難しいですね。その方がどれだけ地域教育協議会の事業の趣旨をわかって書いているのかわからない。かと言って、内部だけの評価ではだめなので難しい。

岡田会長 評価というのはなかなか一筋縄にはいかないです。

長浜委員 今日課の方で苦勞してこれを作られたと見させていただき感じました。岡田会長、奈良市独自の地域で決める学校予算事業は、全国的に見ても極めて先進的なケースであると私たちはとらえていいのですね。

岡田会長 はい。

長浜委員 いろんなコーディネーターの方が学校の下支えをしてきている。これは私良くわかりますが、事務局がおっしゃったように、そこにどんな子どもに育てるのかということ地域がしっかり持っていなければ、今話されている評価も何もないわけです。全体像をしっかり見ていなければ、どの部分で自分たちがやっているか、はっきりかわからないです。まだはっきり整理できていませんが私の中では、学校の子ども像を地域の人たちと4つの小学校と一緒に作り上げていくことをやってきたわけです。評価部会もそれに則ってしましようと。そうでなければ機能しないし、何のための組織かもわかりません。地域にはいろんな組織があり、それをトータルで見て調整していくということをどこかでしなければならぬ。地域教育協議会だけで担えるはずがないです。どこがするのか、私はコミュニティースクールでやっていこうと考えた。学校経営方針などは私が作り、中期ビジョンもすべて会長や委員に見ていただき、修正も加えて、そして今年重点目標はこれですと提案もして、1～2カ月温めて再度確認してスタートするというのをやってきています。ですから、ここで話されている全国的にも先進的だと言われる中身であるならなおのこと方向性をしっかり持つべきではないか。私はまだつかめない。私がやってきたことが正しいのかもわからない。ただ、私が言いたいのは、地域教育協議会だけを見てはだめだということです。予算がなければ何もできないということではいけないわけです。予算の組み立ても、ファンドを考えよう、企業を入れようなど次々考えているところもあります。そのような展開もどこかで示していかないといけない。予算がカットされたらそこで終わりではなく、もっと大きいビジョンの中で考えていかないといけないと皆思っておいた方がいいと思います。豊かな市の財政ではない、いつまでも続くとは思えません。

岡田会長 奈良市は全校区でこの事業を展開しているわけで、他府県では有名な取り組みをしているところもありますが、その地域のある校区だけが突出してやっています。そうでない、全校区でそれぞれが独自の取組が定着しているという意味で非常に先進的であって、一部の学校だけが恩恵を受けているのではないということ奈良市は優れています。それをどう回していくのか、それだけに課題は大きいわけです。中学校区単位で動かしているの、コミュニティースクールというのは学校単位で設置されるから、中学校区

で見るとコミュニティースクールが3校4校5校と出てきた時に、どうビジョンを共有していくのか、課題も出てくるわけです。そこで定着してきた全校区にある地域教育協議会をどう有効に活用していくのか。これをベースに置きながら、ここにこのような機能を持たせていってはどうだろうか、というところの課題だと思います。

上城戸委員 資料の中に「交流の集い」のアンケート結果があります。一部抜粋というところで、「一般のPTA保護者です。初めて参加しました。」との文章がありました。「一般」という単語にも引っかかりましたが、「なかなか敷居が高いですね。」という一言が全部表しているのではないかと感じました。どこに敷居が高いのだろうか。地域の人は学校の敷居が高いのか、書かれた一般の保護者の方にはこういう「交流の集い」に対して、また地域教育協議会に対して敷居が高いのか、それとも「一般のPTA」と書かれているので、PTAの普通の会員がPTA役員に対して考えておられるのか、たった3行の文章ですがここに全て集約されているのではないかと思います。いろんな方法で広報しているのですが、リーフレットを作ったり、HPに載せたりいろんな方法をしています。アンケートに「全然知らなかった。」という人がいるのはショックでした。また、我が校区（富雄中）は地域教育協議会が立ち上がると同時にコミュニティースクールが1つ小学校でスタートしました。最初から両輪で走っています。やりにくいだろうというのは始めから頭に置いていましたが、やりにくいです。放課後子ども教室とコミュニティースクールと両方にやっている上に、集団登下校もしています。放課後の活動ができないです。土日の活動だけになります。コミュニティースクールの企画運営委員会に関わるのですが、結局、内容的に学習支援活動などにコミュニティースクールのメンバーが全部関わっています。そうしないとやっていけない。放課後に関われないから授業の学習支援に関わることになります。地域のエリアの中の放課後であるはずなのに、校区にいる他校に通っている子どものためにはなっていません。イベントなどの活動案内は学校をお借りしていますので、現在小学校単位で配布しています。自治会単位で配布していません。一般の地域の方には回覧の方法でしか広報できていません。そうなるとその方々の遠慮というものがあるようで、校区に住む子ども対象なのにその学校に通う子どもだけになっていることが今問題になっています。バンビーホームも児童数が大変増え、この点もこれからの課題です。

岡田会長 地域教育協議会とコミュニティースクールの組織が二つあって、ふたを開けると同じ人が関わっていたり、中学校区にコミュニティースクールができれば、結局は同じ人が関わっているから、もう少しうまくできないか。すると同じように小学校にこのように多くの部会を作ることがはたして可能か。それだけの人が関わってくれるのかということもあります。絵に描いたようにはいかない気がします。一般の経営論からいうと、組織をいくつか分けていくよりは、事業部制のような形でいく方がいいのかなと思ったりもします。このあたりの整理も必要です。他にありませんか。

松本委員 地域教育協議会があることで幼稚園の方では、先生方も中学校区の中の地域の方とか、先生方との交流、出会いが多くなって、何か取り組むごとに地域の方がボランティアに来ていただいて子どもたちを認めてもらうとか、子どもたちの経験は豊かになったと思います。その中で幼稚園は即学力には現われませんが、自尊感情が高まるというひとつ

の人間形成の役割はあったと思います。地域に出向いてもいつも来てくださる方には園児は自分から挨拶することができるようになり、地域の方々との関係はできてきたと思います。しかし気になるのは、コーディネーターの方は新しい方が入られていませんし、高齢化されていくし、我が幼稚園の担当コーディネーターは3人しかおりません、全てに関わっていただきながら3名の方がフル回転していただいている中で、このような部会は無理だなと思います。ボランティア・コーディネーター募集の声かけ・チラシ配布をしていただきますが、なかなか難しいと実感します。7ページにあります、「イベントから継続した文化への移行」とありますように、地域教育協議会と一緒に予算を使って、共に学び、共に子どもたちと接することは意識をしていますが、そのために何かやらなければならないのではなく、本当に何が必要で、幼稚園でも教育的な活動・意義をおさえて、ある程度精査していかないと、単なる交流活動になってしまっただろうと思ってしまいます。幼稚園は時間的にも地域の方と交流はしやすいとは思いますが、交流すれば出来ているのかというと、そうではないと思いますので、見直しは必要といつも思っています。

岡田会長 事務局から最初にありましたように、「地域で目指す子ども像」を定め、幼稚園から小学校、中学校とどんな体験をしてどういう子どもに育ててほしいのか、そういうビジョンがあって、そのためにこの事業をするという位置づけをきちんと定める。それが明確になっていってやっとならぬ評価にもつながっていく。目指す子ども像のビジョンと事業とのリンクをきちんと考える仕組みが必要になってくるのかと思います。

魚谷委員 「交流の集い」も拝見してきて、各校区の事業が成熟してきているのかと思うのと、全校区でされていることは全体を見せられるとすごいと思いますが、一つ一つの校區別に見ていくと充実しているのか。個別にはどうなのか。これは質問のひとつです。また、地域社会はいろんな価値観の方が集まって活動されるわけです。そこに情報を流していくのは難しく、大変な努力を続けたいといけないと思います。イベントなどきっかけに応じていろんな情報発信はやり続けていかないといけないし、人から人への口コミ情報発信を重要視していく必要も感じています。「羊プロジェクト」でマスコミに取り上げられた校区がありましたが、関心のない方にどう発信するか、これから情報の発信の仕方を校区で努力されることは大きな課題と思います。

最初の質問ですが、校区個別にはどうでしょうか。

岡田会長 「地域で決める予算事業」評価会議という会がありまして、そこで22校区がプレゼンテーションをします。予算書なども見せていただきます。全体的に評価は上がってきています。個々の事業ではそれぞれ努力していますが、細かく見ていくと非常に頑張っているところとご苦労されているところもあります。関わっている方は事業が開始して5年になり、それなりのノウハウの蓄積をされて、学校を巻き込みながら動いていっています。その先の壁といいますか、5年間同じメンバーで同じことやって、要領よくできるようになったが、当事者からも、少しマンネリ感があるという意見は出てきています。良くやっているところの方が「これでいいのだろうか。」と疑問が出てきますので、一概に言えないです。

上城戸委員 「新・地域教育協議会」のイメージ図の中に、「安全育成部会」とありますが、奈良市

には中学校区に少年指導協議会が昔からあります。少年指導協議会のメンバーには小学校も幼稚園も入っています。その少年指導協議会との兼ね合いはどうなりますか。

岡田会長 これはひとつのたたき台として、いろんな課題を出していただきたいと思います。絵だけきれいに描けたらいいということでもありません。中身を考えていかなければなりません。そのための動きやすい組織をモデル化していく必要があります。

上城戸委員 地域教育協議会の会長が少年指導協議会の会長をしているメンバーが数名おります。その人たちが集まると、少年指導協議会は地域教育協議会に吸収されるのではないかとの話は時々出ています。やっていることはほとんど一緒のようですが、心配しています。

岡田和大委員 P T Aでも安全部会があり、少年指導協議会、地域の防災防犯もあり、また地域教育協議会に安全育成部会となると、ほとんどやっていることは同じことになってくるところもあると思います。活動している人も同じで、同じ人がいくつも同じような会議をしている状態になるように思います。放課後子ども教室のことで、P T Aやバンビーの指導員との連携など、連携はわかりますが、どういうことを連携というのか難しい。例えばバンビーの指導員が子どもを連れて放課後子ども教室に参加をしますが、意思疎通はあまりありません。会議に出ている、放課後子ども教室の趣旨を指導員も理解して参加しているかというところでもない。保護者との連携では、P T A役員は良くわかっていますが、そこで止まっています。放課後子ども教室に限らず地域教育協議会の活動も、参加している子ども自身がどういう人がやっているのか、地域の人がやっている意識がないようです。保護者の中も一緒ではないでしょうか。地域教育協議会自身が何を考えて、どうしているところかを伝えることが難しい。連携というのは趣旨、目的を知ってもらうことを連携というのであれば、それに向けてもっとやることはあると思います。

岡田会長 バンビーと放課後子ども教室は同じようですが、しかし突っ込んで話し合いをしていくと、「私たちは生活の場の提供です。」「私たちは教育です。」そこへたどり着いていくのでしょうか。一緒のようで微妙に違います。そんな中で地域の子どものビジョンをどうすれば語り合えるのか。小さな差を越えて一緒に考えていければいいのかなと思います。公民館はいかがですか。

佐野副委員長 利用者の方は学校に関わらない位置の人が多いため、地域に広めていくという意味では公民館も積極的に関わらなければならないと思います。そのためにも地域教育協議会のことを公民館がもっと知らないといけないと思うので、行事や研修会の場に職員が参加したり、積極的に関わられる機会を増やしていき、公民館の職員がわかった上でお伝えをすることができるのではないかと思います。また、新年度になってきますので協議会のメンバーに入れていただいて、部会やコーディネーターさんの集まりに入れていただくなど接する機会を増やせば、また違う道ができるのかなと思います。

岡田会長 「交流の集い」に企業団体ブースを構えているので、来年度はぜひ公民館も出展してください。

佐野副委員長 公民館も是非紹介させていただけたらと思います。後、感想ですが、「新・教育協議会」においては、目指す子ども像を地域の中学校、小学校、幼稚園と地域の皆さんと共有してそれに向けて活動ができているかどうかの評価が必要なのは良くわかりますが、

部会というところに違和感があります。実際、協議会会長、コーディネーター、先生の皆さんが活動されている中で、こういう部会分けが可能でしょうか。これをする中でよりステップアップできるようになるのでしょうか。先ほどの幼稚園のケースのように、コーディネーター3人だけで部会分けは不可能な状況があると思います。せっかくステップアップするためなら、今活動している方がより活動しやすく、進めやすく、ステップアップしやすいあり方にしていく方がいいと思います。コーディネーター勉強会など、実際に活動されている方々の声を聞きながら形ができるといいと思います。

岡田会長 コーディネーターの立場でいかがですか。

上田委員 看板の掛け替えだけで終わっては困ると思います。また、部会でも、学校評議員とコーディネーターと両方されている方もおられますので、自分で自分を評価する形になってしまいますし、この点も考えていただきたいです。また、案と聞いていますがこの冊子は一般に配られるのでしょうか。

岡田会長 これはあくまでも内部資料です。この会議でのたたき台ですから、何のオーソライズ（承認）もされていない資料で、私たちがこの会議で検討していくためのたたき台です。

上田委員 5ページの地域が参加している割合が高い学校ほど、国語、算数ができているという表し方ですが、参加したら学力が上がるのか。地域教育協議会は学力向上だけの目的かと誤解をされないかと懸念を抱いています。それでこれを一般に公開されるのかと伺いました。

岡田会長 国立青少年機構など、体験活動の多い子どもは学力が高いなどの統計はあちらこちらであります。それが一体どうつながっているのか、よくわかりませんが、いろいろの経験をした子どもの学力が高いとあちらこちらで言われています。ただ、この事業に直に結び付けられるのかどうか。ひとつの指標としてあってはいいが、使い方が難しい。どういう形で表に出すかです。広報については、どこにどの目的でどのデータを示して理解してもらうのかは考えないといけません。

いろいろとご意見をいただいてまいりましたが、現状の一つの見かたとしてこういうことだと、考えていただきました。課題も見えてきていて、ただ地域とイベントやって充実感がありますだけではだめで、教育の事業ですから地域でどんな子どもを育てていくのか、どんな活動をしていくのかをしっかりと考えて、それを振り返っていかなければならないところまで来ています。いろんな行政施策で似たような事業が出ているものをどう機能させていくのか、今後少し時間をかけて考えていこうとする、今日は出発点かと思えます。

いろいろなご意見ありがとうございました。それではこれで本日の会議を終了いたします。

○ 梅田学校教育部長あいさつ

○ 閉会

- ※ 資料
- ① 平成26年度 地域で決める学校予算事業における活動内容
 - ② 奈良市地域教育推進事業 第4回「交流の集い」の総括
 - ③ 平成26年度 コーディネーター研修総括
 - ④ 地域・学校連携の今後のビジョン —奈良市地域連携推進事業の課題と展望—